

中 嶋 嶺 雄
(東京外国語大学学長)

「教育百年の計」について

- ① 「教育」という言葉は、『孟子』に発源する。英語のeducationは、ラテン語起源のものであるが、洋の東西を問わず、教育とは、有識の成人が幼体ないし未成人に知識や情報を伝達し、彼らの社会化と人格形成を育成するという、厳しくも夢多き人間的行為であった。この原点が見失われている状態を早急に回復しなければならない。戦後教育の見直し、教育基本法の再検討は、この原点に立って、またその限りにおいて、なされるべきであろう。
- ② 人格形成に関しては、まず家族、とくに両親の責任の自覚が重要であって、学校にすべてを押しつけるべきではない。学校はあくまでも学習に重点を置くべきである。また地域社会は補完的な機能を担うべきであろう。生涯学習は、高齢化社会の活性化に不可欠であるばかりか、豊かな人生のための最重要課題であろう。
- ③ 「個」の充実があって、はじめて「公」が成り立つのであるが、「個」のエゴや欲求を「公」に託して、そのうえ「公」を批判するといった風潮が、教育の荒廃を招いた根本原因だといえよう。
- ④ 「教育」は永遠の課題でもあるので、議論し始めればいくらでも時間がかかる。しかし、「教育百年の計」こそが「国家百年の計」でもあるので、短期集中的に議論して成案を得、できることから政策化し、実行すべきである。その際、
 - * 教育の国際化（英語教育の抜本的見直し、留学生政策の根本的改善を含む）にどう取り組むべきかが当面の緊急課題であろう。
 - * 高等教育と学術研究体制の整備については、予算の増額による国費の効果的な投入が必要であることはいうまでもないが（欧米先進国に比して日本の高等教育機関が貧弱なので）、その際には国立大学の抜本的な改革と再編が是非必要である。中国の国有企業に等しいような今日の国立大学の現状をこのまま放置するなら、「教育百年の計」は成り立たない。

有識者から寄せられた
教育のあり方に関する意見

平成12年5月

内閣官房内閣内政審議室 教育改革国民会議担当室

佐 谷	力 (大阪府立松原高等学校教諭)	105
佐 藤	初 雄 (国際自然大学校代表)	108
サミュエル・M.	シェパード (日米教育委員会事務局長)	110
椎 名	良 吉 (筑波大学名誉教授・目白大学客員教授)	130
清 水	司 (東京家政大学学長、東京都教育委員長)	132
白 井	智 子 (ドリームプラネットインターナショナルスクール校長)	134
白 川	静 (立命館大学名誉教授)	137
杉 田	豊 (静岡県教育委員会教育長)	139
鈴 木	聡 (劇作家)	142
千	宗 室 (裏千家家元)	146
高 木	剛 (ゼンセン同盟会長)	148
高 瀬	廣 居 (評論家)	151
高 橋	叡 子 (大阪国際文化協会会長)	154
高 原	慶一朗 (ユニ・チャーム(株)社長)	157
高 秀	秀 信 (横浜市長)	162
玉 木	研 二 (毎日新聞 社会部デスク)	164
土 橋	荘 司 (全国連合退職校長会会長)	167
利 根	川 進 (マサチューセッツ工科大学教授)	169
長 崎	和 夫 (前・毎日新聞社論説委員長)	172
中 嶋	嶺 雄 (東京外国語大学学長)	173
中 根	千 枝 (東京大学名誉教授・日本学士院会員)	174
中 坊	公 平 (弁護士、(株)整理回収機構前社長)	176
成 田	有 恒 (浄土宗(前)宗務総長)	178
西 尾	幹 二 (文芸評論家・電気通信大学教授)	180
西 澤	潤 一 (岩手県立大学学長)	184
西 原	春 夫 (国士館理事長)	187
野 村	佳 子 ((財)野村生涯教育センター理事長)	190
橋 爪	大三郎 (東京工業大学大学院教授)	193
林	以 一 (木挽職人)	195
ハンス ユーゲン・マルクス	(南山大学学長)	198
樋 口	廣太郎 (アサヒビール(株)名誉会長)	201
平 野	啓一郎 (作 家)	205
広 中	平 祐 (山口大学学長)	208
福 沢	亜 夫 (時事通信社解説委員長)	209
福 武	總一郎 ((株)エネコロポレーション代表取締役社長)	212